傑作とは

霧柚 祐兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
傑作とは

【Ｎコード】
Ｎ５４９１Ｉ

【作者名】
霧柚　祐兎

【あらすじ】
霧柚　祐兎の処女作。生まれた街、育った街、別れる街。此処から始まっていき、何処かで終わりを迎える。その間にはいろいろな感情があって、愛があって、言葉に出来ないモノもあって、そんな生き物の私達の平凡な姿を描いた歌詞集です。

始まりの音

ドンッ！で全てが始まっていく
「で、それなんで？」って言われたって　どんな理由が有ると言う？
番だ。って巣立ちで飛びだっていく
出番だ。さぁ、手を挙げてよ！　手。また一人で舵取っていく

そう、君の中に広がる世界と決して遠くはない
もうだって、狭いもんな。簡単な事ばっか
もっと遠くを見つめなきゃ、楽して済むくらいの
余裕がある世界観が無駄なスペック。余ってるぜ

不完全な体力で不自然に着込んで
振り返る事も良い。もう、いい？　準備イイ？

はいっ！　よーい……

ドンッ！で全てが始まっていく
「で、それなんで？」って言われたって　どんな理由が有ると言う？
番だ。って巣立ちで飛びだっていく
出番だ。さぁ、手を挙げてよ！　手。また一人で舵取っていく

聞き慣れた街の音　おぉ！　お前生きてたんか？！
知り合いばかり　場馴染んだ　街の声に
背向けて、歩き出すとしよう。
あぁ、感謝なる街よ。さらばだ、なぁ、またな。

さぁ、位置について　よーい……

ドンッ！で全てが始まっていく
「で、それなんで？」って言われたって　どんな理由が有ると言う？
番だ。って巣立ちで飛びだっていく
出番だ。さぁ、手を挙げてよ！　手。また一人で舵取っていく

どんな苦難に出逢ったって、腐らん！　それ、大事な気持ち
ドンッ！でさぁ、始まっていく。街の音が遠ざかる。

サウンドトラック

「私はもう、変わらないわ」ねぇ、そのCD手にとってさぁ
どんな愚痴も取り消す　不安でも、不完全でも……

代わりはいない世の中なのに、人は減るものだね
愛を確かに受けとって　君は君　僕は僕として
変えられない世の中だけに、人は泣く者だね
裏切る事無く息をして　君は君　僕は僕として

丸い地球は回りながら、何を目指すのか、と
別に深い意味はないがな、地球も暇なんじゃない？
人工衛星からズームして、狭いこの街で生きる君へ
途方に暮れる平行線　二本がいつか交わりますように……

代わりはいない世の中なのに、人は減るものだね
愛を確かに受けとって　君は君　僕は僕として
変えられない世の中だけに、人は泣く者だね
裏切る事無く息をして　君は君　僕は僕として

あぁ、愛を誰もが探してる　ねぇ、ちょっと、そこにあるじゃない？
気付けない程に近くに　そっとね、生まれた時、与えられた
一生分の愛を、幸せを、親愛なる誰もに、平等にさ……

代わりはいない世の中なのに、ピンチヒッターなんて言葉もある
それは全然ピンチじゃねぇよ！　まだまだだ！
へたばるな。落ち込むな。そんなんじゃ、絶望も笑うくらいの希望。

だから……

代わりはいない世の中なのに、君は手首裂くの好きで
愛を確かに受けとって　君は君　僕は僕として
変えられない世の中だけに、人は泣く者だね
裏切る事無く息をして　君は君　僕は僕として

君は君　代わりはいない　それだから
僕は僕　代わりはいない　それだから

君は君　終わりまでは　ずっと　君は君
不安で、不完全な君は君　代わりはいない
君は君　で、解決かな？

我輩、公園にて

人間達に散々、虐め抜かれて早くも十年。
そろそろ世代交代じゃない？　なぁ、お前昔もだろうが。
荒れた毛並みは生れつき、だが汚れは違う。
そりゃ飯も無いし、ゴミは漁るよ。仕方ないだろうが。

だがな、でも、それでもな、優しい奴もいたもんだな。
ランドセル背負った小さな男の子は給食のパンをくれた。

初めて知った優しさは、違和感のある温かさだった
初めて知った感動で、今まで知らなかった涙を知った

何年間もこれから、一緒に遊んでいいんだな？
どんどん嬉しくなってくる。なぁ、君は俺を汚いと思わない？
何かがさ、似てるんだ。ランドセルの汚れとか
同じ場所についた傷。左頬についた傷。

でもな、同じものを持ててさ、本当に嬉しかったんだよ。
君が俺と同じように、いじめられていると知った夕方も

初めて知った悲しみは、違和感のある冷たさだった
初めて知った罪悪感、人々も同じような傷を持つのか……

今日も公園で男の子は殴られ蹴られ。何もしていないのに……
だからさ、俺は知っていたから、男の子がいない間に
敵討ちにと飛び掛った。本当は怖かったよ。人が怖かったよ。
でも、君の優しさに比べれば、こんなもん軽いモノなんだ。

初めて知った寂しさは、今までのとは違う温かさがあった
何度も背負った孤独感、君を置き去りに俺は……

拝啓、ランドセルの男の子。元気で生きていってください。
俺は君の優しさを知っている。頑張って生きろ！じゃあね。

ブルース・ロック

えっ？　人生飽きたの？　そんなんじゃ、しょうがないな
あぁ？　人生辛いだろ？　そんなもんは当たり前の前だろ

うぜぇ愚痴ばっか吐いてないで
もっと　耳傾けて

愛が鳴ってる事に気付け
あのブルース・ロック　聴けば分かるだろ

全部嫌になったなら
全て投げ出して　イヤホン構えろ
全部くだらなくなったら
全て投げ出して　イヤホン構えろ

くせぇ音なんか流してないで
あのノイズを出せ

愛が鳴ってる事に気付け
あのブルース・ロック　世界を変えるぜ

くだらねぇもんばっか　酷い時代だな
くせぇ音楽ばっか　酷い時代だな

だろ？　お前の世界は変わったろ
もっと　耳傾けて

愛が鳴ってる事に気付け

あのブルース・ロック　腐った世界に
デカイ音で流せよ

愛が鳴ってる事に気付け
あのブルース・ロック　世界を変えるぜ
世界は変わるぜ　嘘は無いぜ

あのブルース・ロックが……
あのブルース・ロックが……

旅立ちとは

さらば、生まれた街よ。
さらば、全ての世界は此処である事。
それは変わらずに、俺は街を出て行く。

ねぇ、楽しかったよね。あの魚屋の親父さんはいつも元気で。
そういえば、そんな事もあったっけ？　もう大分、前の話
俺が家出してさ迷ってる時、商店街の人達はちゃんと話聞いてくれて
本当に嬉しかったんだよ。まぁ、そんな事件は三回くらいで止んだね。

いろいろ、思い出は溢れるくらいで
今、居ろ。そんな父の言葉を越えて
俺は街を背負って行く。

さらば、生まれた街よ。
そこには愛があって、繋がりがあった。
さらば、育った故郷よ。
あの商店街を走り抜けて、始発の電車を目指す。

なぁ、皆は俺がいなくなってどう思う？　寂しいかな？　哀しいかな？
その他、いろいろな感情があるけどさ、どうか「嬉しい」でありません
ように。
母さん、父さん、今回の家出はちょっと違うけどさ、まぁ、聴いてよ。
こんな詩で、へっぽこなメロディーで、それでも想いが乗った唄が

今、此処に有るからさ。

あぁ、こんな時がくる事は分かっていたけど……
あぁ、どんな時だってこの時の事を思い出して。

さらば、生まれた街よ。
そこには愛があって、繋がりがあった。
さらば、育った故郷よ。
今日はこの街の為に、商店街の為に、住民の為に
歌われる唄が流れているよ。

さらば、生まれた街よ。
さらば、全ての世界は此処である事。
それは変わらずに、俺は街を出て行く。

通過点

とりあえず「よっこらしょっと」で、先どうしようか。
別にいい、今はこのままがいい。ここらで休憩としようか。

何がどうなって……訳分からん時代の中だ
「頑張って！期待してるよ」って近所のおばさんは言うがな
だがな、そんな事言っても、期待に応えられる命じゃないさ……

知らない様に　君も裏では恨まれるがな
知ってる通り　僕は表で君を好んでる。さぁ、行く？

とりあえず「よっこらしょっと」で、先どうしようか。
別にいい、今はこのままがいい。ここらで休憩としようか。

怖い事ばかり　複雑な時代の中でね
何よりも怖い「死」と向き合える良いチャンスだよ。
立ち止まろう。上見よう。何もかも忘れ去ろう。ってくらい
暗い表情、今は内緒で綺麗な赤い空を見よう。妙な不安、排除。

消えない様に　君は明日、事故死するかもな。
願ってもいない、有り得ない訳じゃない。
なぁ、全ては偶然と出逢うままになぁ。

とりあえず「よっこらしょっと」で、先どうしようか。
別にいい、今はこのままがいい。ここらで休憩としようか。

スタートとゴールの間だからさ、生と死の狭間での事だって。

この先にどんな事が待ち受けていようとさ。
特にねぇ、望むもんもない。今は死に向かう通過点だからね。

とりあえず「よっこらしょっと」で、先どうしようか
別にいい、今はこのままがいい。ここらで休憩としようか。

別にいいさ、通過点だからね。通るべき場所だからね。
別にいいさ、俺の人生だからね。期待なんて背負う事ないよね。

部屋の中では

あぁ、この部屋のドアを叩けば、俺はもういない。
あぁ、この部屋から逃げ出して、俺はもういない。

何が違ってんだ？って。アンタはいつも言うよね。
違うもなにも、まだ何もアクションは起きてないんだぜ。
スタートしろよ。呼吸は忘れずにな。死にたいなんて言うなよ。
ちゃんと生きてないんだから、命の重さなんてまだ分かんないだろ？

愛がこの場所にもちゃんとあるように……
全ての生き物の世界に愛が降り注ぐように……

そんなにさ、焦んなって。急いでは欲しいけど、焦りは禁物だろ。
明日へ向かう飛行船はもう出て行ってしまったからさ。
さぁ、手伸ばすよ。この手に掴まって。君はそのドアに入ってはいけないよ。
まだ早い。だから急いで。焦りすぎずに、急いで飛行船に乗って。

愛がこの場所にもちゃんとあるように……
明日に光が射して、幸せが降り注ぐように……

黒に染まった世界。みんなが落ち込んだせいかい？
そこに置いてあるドアは、心臓が動くうちは駄目だ！
白に染まった世界。反対色でしか表せない世界。
他にだって赤青黄色緑。無限の色があるんだから。

みんな、個人の色持って、行こうぜ。

愛がこの場所にもちゃんとあるように……
全ての生き物の世界に愛が降り注ぐように……

相変わらずの世界でも、命が芽生えるように
全ての生き物達が愛に包まれて、幸せに囲まれて
生きていけますように……綺麗に死ねますように……

いつまでも世界を壊さずにいて

朝にはいつも近所の犬が大きい声で鳴いて
「また、学校か……」って制服に着替えて家を出る。
春にはあの通り沿いに桜が綺麗に咲いて
冬になれば、高橋くん家のガキが雪だるま作る。

それが彼の世界だ。
それが彼の世界なんだ。

朝起きてすぐ、決まってお気に入りのブルース流して
高鳴る鼓動のまま、イヤホンでまたブルース聴いて
帰りは夜、一人で電車に乗り、ブルースを聴いて
チャリ乗って家まで、ブルース聴いて、コンポに変更。

それが俺の世界だ。
それが俺の世界なんだ。

首吊って見つかった。それが彼女の結末だった。
手首切って死んだ。それが少女の結末だった。

漫画家になって夢を与える。それが彼女の世界だった。
パティシエになる夢を叶える。それが少女の世界だった。

誰もが世界の中に生きていて、一つの世界を持っている。
それは全部君のモノだよ。間違いなく君の世界だから。

それが世界だ。それぞれの世界だ。
それが世界だ。それぞれの世界なんだ。

いつまでも世界を壊さずにいて……
いつまでも世界を壊さずにいて……

傑作となる

変わらず世界は混沌を辿る事が得意だね。
相変わらずだよ。人だって、君だって、僕だって
目の前にある希望には疎い者です。

皆知らず世界は純白を纏うのに疲れたらしい。
神も知らずに。人なんだ。君なんだ。僕なんだ。
当たり前に幸せを被せ、他の事を見ない振り。

あの街を出て、僕は何を手にしたのだろう。
間違いじゃなかったのか。まぁ、いいや。うん、行こう。

黒い服も白い服も上手に着こなす。
気持ちもそんなもんだよな。色は数にならない。
その個人を見つけたら、人は傑作となるのだろう。

望遠鏡を覗いたら、見た事もない微生物がいた。
気持ち悪い。そう思う事。それって大事だよ。
好き嫌いのある人間。感情があっていいよ。

あの街を出て、僕は何も後悔してないか。
勘違いじゃないのか。まぁ、いいや。うん、寝よう……
そうだ、寝ようか。

同じ色を持たないように、パレットはそれぞれ違う。
自分の絵の具を持っていこう。スケッチしたかい？
過去の自分を絵画にして、未来の自分に届けて
反応はどうかな？その色が出せたなら、それがそう、うん。

黒い服も白い服も上手に着こなす。
気持ちもそんなもんだよな。色は数にならない。
その個人を見つけたら、人は傑作となるのだろう。

君は青。僕は赤。違う色だから混ざって変わる。
分かち合える気持ちがある。って事でしょ。
全ての人々、絵の具は一本で十分だよね。傑作となる。

それで平気。君はいずれ傑作となる。
それで平気。僕はいずれ傑作となる。

足りないモノは

やっと今笑える、あなたはそう言った。死んだ目で。
温暖化が進む世界なのに、心はずっと冷たいままで。

素晴らしき、この世界に足りないのは
お互いを思い合う気持ちなのかもしれないね

そっと息を引き取った。あの子猫は誰の記憶にも残らない。
俺だって、そうか……死体に変われば泣かれるだけで……

素晴らしき、この世界に足りないのは
生と死の狭間を生きる、少しの希望じゃないかな

一緒にいられるくらいなら、死んだ方がいい。
別れる寂しさ知るなら、出逢わない方がいい。
でも不完全だから、空いた穴を埋めて欲しい。
僕にはない。君が持っているもので。

誰もが皆、憎しみを抱えたまま。いらない自分を消そうとしてる
誰もが皆、持っている孤独が分かるかい？　寂しい事は皆同じだろ。

素晴らしき、この世界に足りないのは
世界を愛する、ほんの少しの愛情じゃないかな。

素晴らしき、この世界に足りないのは
生と死の狭間で出逢う、その希望じゃないかな。

全ての生き物に足りないのは

そんなちょっとの気持ちなのかもしれないね。

星に願いを

君がいない。今だって、君はいない。此処にいない。
生まれ育った街を出ていった君はいない。もう、いない。
何も無い。なぁ、それだって、何も無い、って事が有る。
始めた場所は此処だった。あなたがいた此処だった。

きらきら光る、あの光を僕等は星と呼ぶ。
星から見た、その光はきっと僕等なのだろう。

夢にも見ない。そんな事、夢にも見ない。夢で逢わない。
夢が叶った夢なんてものは夢にも見ない。見たくない！
此処で有る。だろ？って俺だって、此処に有る。って事が有る。
生きている事が怪しかった。あなたがいた事だって……

きらきら光る、希望は僕等を見て見ぬ振り。
絶望ばかり、それだって有る。
希望も絶望も有るって幸せが此処には有る。んで、

さぁ、始まりの音を聴いた街から通過点を通り過ぎて
最期のことを考えた。って、んなもんその時になんなきゃ分からん！
なぁ、訳分かんねぇよな。この夢は自ら叶えるものだ！
始まりと終わりを知る時がね、近くても、僕等は星に、星は僕等に、
願いを……

きらきら光る、希望はいつも通りの「イマ」って事。
間違いの有る、失敗の有る。生きる者達が希望の星だって

きらきら光る、あの光を僕等は星と呼ぶ。

星から見た、その光はきっと僕等なのだろう。

星に願いを……奥の方から、大きい声で
星に願いを……構うもんか！大きい声で

最期とは

公園の通り沿いで野良猫一匹死んでた
それで終わり？　これは……もう終わり？
涙が出ない程に呆気ない。あぁ、もういない。

望遠鏡で眺めた一番綺麗な星は消えた。
それで終わり？　これは……もう終わり？
涙が綺麗に輝く星の様。あぁ、もう死のう……

見て。来て。見て。来て。
この街の夜はさぁ、静かで良いもんだろ？
見て。来て。見て。来て。
泣く時は泣いてもいい。とりあえず俺は笑っているから。

ねぇ、あとで一緒に笑おう。
ねぇ、あの星が見える時ね。

生まれ育った街に背を向けて此処にいる。
それが恩返し。俺の名で街に恩返し。
みんな綺麗に見えるよ。良い笑顔の為に……

見て。来て。見て。来て。
この世界は汚くて、素晴らしい世界だね。
見て。来て。見て。来て。
死ぬ時は死んだっていい。途中で死ぬ必要ないでしょ？

ねぇ、君はまだ先走りだよ。
ねぇ、あの星になれる時にね。

嘆いたって。ねぇ、此処は思い通りにいかない場所。
穢れた姿で……さぁ、綺麗に汚れて生きていこうか。
最期だってあるよ。途中に最期はないよ。だからやめて。
手首の傷治して。ねぇ、見てこの世界を。ねぇ、来てこの街に。

見て。来て。見て。来て。
間違いは何度だって良い。素晴らしく汚れて。
さぁ、見て。来て。見て。来て。
無駄な足掻きも何度だって良い。無意味なもんなんて無い。

ねぇ、この世界に君がいる事で
ねぇ、この世界に僕がいる事で
ねぇ、この世界に終わりが一つ増えて
ねぇ、この世界に光が一つ増えるよ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5491i/

傑作とは

2010年10月28日04時16分発行